

名古屋能楽堂 正月特別公演

※能「翁」開演後30分間は入退場できませんのでご注意ください。

能 翁(観世流)



翁 千歳 三番叟 面箱持 笛 竹市 学 脇鼓 古田 知英 小鼓頭取 曾和 鼓堂 成田 奏 人鼓 河村裕一郎

後見

祖父江修一 下川 宜長

狂口後見

野村又三郎 藤波 徹

地謡

本田 勲 山中 雅志 上田 貴弘 山田 義高 松山 幸親

休類十五分

狂言 附子(和泉流)

シテ 太郎冠者 佐藤 友彦 アド 次郎冠者 今枝 郁雄 アド 主人 佐藤 融

後見

井上松次郎

能 羽衣(観世流)

シテ 天人 久田三津子 ワキ 漁夫白龍 飯富 雅介 ワキツレ 漁夫 梶元 正樹

後見

祖父江修一 山田 義高

地謡

吉沢 旭 松山 幸親 下川 宜長 山中 雅志 本田 勲

(午後四時頃終了予定)

『イヤホンガイド』

◆能「翁」

日本語/大山 範子 (神戸女子大学古典芸能研究センター) 非常勤研究員

英語/藤江さお里(通訳ガイド)

◆能「羽衣」

日本語/伊藤 利香(名古屋能楽堂)

英語/藤江さお里(通訳ガイド)

止むを得ず曲目、出演者等が変更となる場合があります。

上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は事前に許可を受けた方以外はご遠慮ください。

◆能解説「翁」(おきな)

新春、切火で清められた舞台に、漆塗をすませた演者が、面箱翁、千歳、三番叟と続いて全員が登場する。

「翁」の舞は三部から成り立っていて、最初の千歳は「鳴るは滝の水」と謡い出し、若々しく賑やかな舞を舞う。次に翁の面を舞台上でつけた三回は折衷的な意味合いを持つ重厚な舞を舞う。その中で、角脇座前中央で三回ずつ拍子踏を踏む。これを「天・地・人の拍子」と称する。翁と千歳の退場後、二番叟の賑やかな舞となる。はじめの部分を「採之段」、黒式尉の面をつけ、鈴を持った後半部の舞を「鈴之段」と称する。

天下泰平、国土安穩を祈る儀式能。新年の翁。それはさわやかな日本の新春。

◆狂言解説「附子」(ふす)

主人は外出するにあたり、二人の召使いに『附子』を託して「これは吹く風に触れるだけでも滅却(ニ死)に値するほどの猛毒なので、用心しながら決して中を見な」と言い付けて出掛けます。残された召使いは怖々と見張りながらも段々と中身が気になって...

本来は「毒」と書いて「ぶす」と読み、自然界に存在する野毒などのうち毒性の強いものを指し、代表的なものにはトリカブトがあります。狂言に於いては附子(一流派によつては「不須」の表記が、また人物設定では「主人」と家来)として伝承されておりますが、最古の狂言集と云われる「天正狂言本」(16世紀)・安土桃山時代)には同じ主従関係でも「和向」と小坊主としての設定で描かれています。さらに「潮れば沙石集」(13世紀)・鎌倉時代)にも類似のエンタードがすでに存在し、この説話集は名古屋市内東区に現存する長母寺の住職による編纂と伝えられています。あの一休さんの頓智話和尚の留守中に水船を見つけた一休が、全て食べてしまったのちに言いつくしを考へるを思いつくされる方もあるでしょう。「やれ」と言われればやりたくない、「やるな」と云われればやりたくない。誰しにも起こり得る相反する葛藤がよく表されている事から、本来は「欲」や「嗜」を戒める僧侶の教訓として用いられたものではと推察されます。

かつては小学6年(光岡図書刊)の国語教科書に、現在は小学5年(教育出版刊)に採用され生徒児童向けの上演機会も多く、「狂言」と云えば附子」と知られるほどの代表作です。(井上松次郎)

◆能解説「羽衣」(はつる)

駿河国三保の松原に住む白龍という漁夫が、今日も連れ立って釣りにやつてきます。浦の景色を眺めていると、空に花が散り、音楽が聞こえていり香りがします。見回すと、松の梢に美しい衣が掛かっています。家の宝にしようと思ひ、持ち帰ろうとします。一人の女性が現れ、私の衣なので返してほしいと頼みます。そして自分も天女で、衣は天の羽衣で、人間が持つものではないといひます。白龍はますます喜び、返そうとします。天女は羽衣がなければ天に行けぬと云います。白龍は驚き、霧立つ雲路まで行って行方知らずともいひ、空に行くと云います。白龍は天人が可愛く、どうにもなり、天女の舞を見せよと云います。白龍は、先に衣を返すと、舞をなしで帰ってしまふのではと心配しますが、疑いは人間にあり、天上には偽りは無いと言われ、恥を知り衣を返します。天女は羽衣をまとい、月宮殿の天人の生活の面白さを、春の三保の松原の景色を称え、駿河舞を舞いながら、天上へと帰っていきます。(おわりに)

羽衣伝説は各地にあります。最古のものとしては、滋賀県余呉湖を舞台とした『近江国風土記逸文』のもの、京都府京丹波市を舞台とした『丹波国風土記逸文』と云われています。これらの伝説が、各地に広まり定着していったのだと考えられています。さて風土記は奈良時代の初期に全国で書かれたもので、出雲国(播磨国、肥前国、常陸国、豊後国)のうたが写本で現存しています。その他の風土記にも、別の書物に転載されて一部が伝わっているものがあり、これを「逸文」と呼んでいます。

正月特別公演事前学習講座 12月11日(土) 14:00~16:00

受講チケット 500円

◆能「翁」「羽衣」のあらすじ、見どころを解説します。詳細は事前学習講座チラシをご覧ください。 ※事前学習講座のチケットは、名古屋文化振興事業団の管理する文化施設窓口にて取り扱いをしております。

チケット料金(税込み) \*前売券発売日 令和3年10月13日(水)

Table with columns: 全指定席, 正面席A, 正面席B・中正面席・脇正面席, 一般 Adult, 学生 Student under 25 years old. Rows: 前売 Advance sale, 5,200円, 4,200円, 2,000円

\*学生券は25歳以下を対象とします。\*未就学児のご入場はお断りいたします。 \*チケットは1回につき4枚までの販売とさせていただきます。

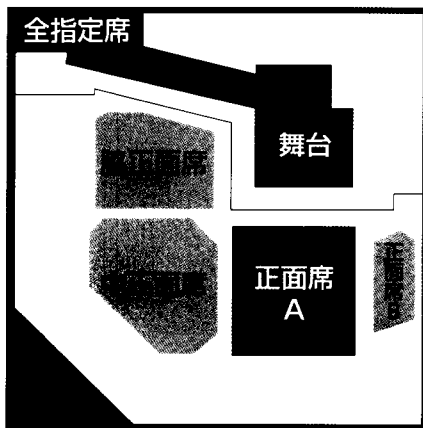
\*事業団友の会会員・障がい者手帳等をお持ちの方(付添者1名含む)は400円引きです。(学生券の割引はありません) (名古屋能楽堂・事業団チケットガイド・事業団施設窓口のみ。各割引の併用はできません。)

前売券取扱所 Ticket Office

名古屋能楽堂 TEL.052-231-0088 \*前売券発売日当日は、お電話が繋がりにくいことがあります。 名古屋文化振興事業団チケットガイド TEL.052-249-9387 (平日9:00~17:00/チケット郵送可) 名古屋文化振興事業団が管理する文化施設窓口<土日祝日も営業>でもお求めいただけます。(工事休憩などがありますので、ホームページでご確認ください) チケットぴあ TEL.0570-02-9999 (Pコード508-784)

\*外国籍が証明できる/パスポート等を持参された方には前売・当日とも割引します。(名古屋能楽堂取扱いのみ) Discount is available by showing passport or other proof of foreign nationality. (at Nagoya Noh Theater only)

お問い合わせ/名古屋能楽堂 TEL 052-231-0088 FAX 052-231-8756



【感染予防への取り組みとお願い】

- ◎感染予防のため、ご来館の際はマスクをご着用ください。 マスクを着用でない方の来館はお断りします。 ◎入場時の検温にご協力をお願いします。 37.5度以上の場合には入場をお断りします。 ◎チケットの半券にお名前と連絡先電話番号をご記入ください。 ご記入いただきました個人情報は、新型コロナウイルス感染者が発生した場合などに必要に応じて保健所等の公的機関へ提供されます。 \*定期開経過後に適切に破棄させていただきます。 ◎本公演の座席は定員の半分以下の数で、お客様同士の距離を保つていただくため市松模様状に配置しております。 ◎本公演は名古屋市の「文化施設における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」に基づき実施いたします。 ガイドラインに基づいた対策にご理解・ご協力をお願いいたします。

公演についての最新の情報は名古屋能楽堂ホームページをご覧ください。



https://www.bunka758.or.jp/scd24\_top.html